

春ノ十表

いそぎ参りたまへうちつれ侍るべきよし申

て七條へでう大宮へみやにとどまりければそのあ

したまいりさまにさそひければ門に

人あまた立さはぎてさまくになき

かなしむ聲へこゑ聞えてとは今夜へこんやね死へしにく

しなせ給ぬとて十九になる妻女へさいぢよ五十

有餘へうよの母へはゝ聲もおしまずなきかなしむ

を聞にいよくかきくらす心ぢして

風のまへのともし火へびはすのうき葉へばの露